

## シンポジウム【HBO医療スタッフのタスク（働き方改革との関連）】

### 琉球大学病院高気圧治療部の感染対策と外来患者に対する治療再開の取り組み

砂川昌秀<sup>1)</sup> 上江洲安之<sup>1)</sup> 亀山沙矢香<sup>2)</sup>  
前原博樹<sup>3)</sup> 梅村武寛<sup>3),4)</sup>

1)琉球大学病院 医療技術部 臨床工学部門  
2)琉球大学病院 看護部  
3)琉球大学病院 高気圧治療部  
4)琉球大学病院 救急部

#### 【はじめに】

琉球大学病院（以下当院）は、新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）の感染対策として、2020年5月から高気圧酸素治療（以下HBO）の外来対応を制限した。当初は、入院治療後の退院患者に対する外来HBOは継続したが、感染拡大により、2020年11月からHBOは入院患者のみを対象とした。当院内で病棟内感染が散見される時期でもHBOによる患者間感染は認めず、外来HBO再開に向けて参考とした。

#### 【目的】

外来HBO再開における感染対策とHBO件数や外来患者の治療状況を明らかにすること、および感染対策による職員の労務管理上の問題を検討する。

#### 【方法】

外来HBOを休診とした2020年度（2020年5月から11月は、退院後の患者は治療対応）と2021年度、外来治療を再開した2022年度を対象とした。

#### 【結果】

HBO件数は、2020年度2221件（外来件数234件）から、2021年度は984件（外来治療0件）に減少した。外来再開の2022年度は、入院と外来の患者群を分離した治療体制に加え、第二種装置の手動操作による強制換気（50kPaに加圧後、約60kPaにて減圧）を行なった。外来再開により突発性難聴などの依頼が増加し、HBO件数は2038件（外来件数708件）に増加した。外来患者は、退院後のHBO継続19名、各科紹介による通院治療24名と救急搬送による11名の54名となった。少人数によるHBO対応は、稼働回数に増加が見られ、2022年度の年間稼働回数は901回、

時間外による装置稼働も65回に増加した（図1）。

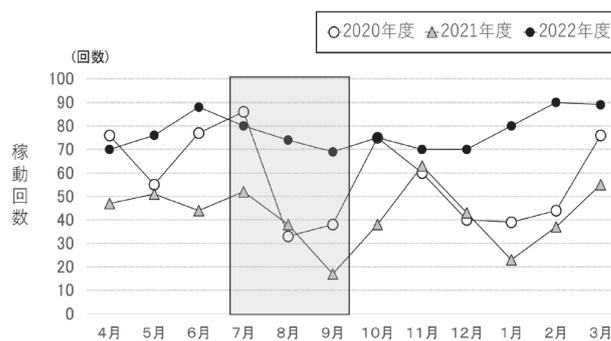


図1 各年度における月間稼働回数の推移

#### 【考察】

日々変化する感染状況においては感染対策の徹底に限界もある。今回、外来HBO再開にあたり、看護師による外来患者の体調管理と感染状況の把握、そして患者への感染対策の協力依頼は、感染リスクを減らす大きな要素であった。第二種装置の長所である、複数名の同時治療は、感染対策として1名のみの治療対応もあり、稼働回数増加による職員の長時間拘束も見られる。また、24時間対応可能なHBO体制には、専属の医師や医療職のみの対応では困難であり、長時間労働の削減においても、部署単位から救急センターなど組織による診療体制が有効と思われる。

#### 【結語】

今回、外来再開時の感染対策は、患者間での感染発生は見られず、HBO件数は増加している。職員の長時間拘束は、2024年度から始まる『医師の働き方改革』を踏まえ、HBO専門医の業務シフトなど、HBO体制の検討が必要である。24時間対応可能なHBO体制には、看護師や臨床工学技士との組織連携も必要であり、HBOの安全確保には、学会認定の看護師や臨床工学技士による診療補助が重要となる。現在、HBO専門医師の指示書による臨床対応を、学会認定専門技師が複数にて協議実施する状況を検討している。